





二二〇九

共一八九

142

明應五年十月

廿七日

弟万平三

付尾家

寺社難事記

大乘院

是高柳方舟可走清溪文



日光夜游

弟西辛十三
寺祐祚書

月

大庵

此中無外事
但使有心人
自古以來人
多不識此理
故其處處有
人情之私見
而不知其真
理所在也

一 小口拔音用脚人主音
 一 長音用脚人主音
 一 袋麻字方參音
 一 耳近呼音
 一 条木中宣布音
 一 弓嘴音
 一 嘴氣音
 一 端音水文
 一 同歸音
 一 口破音
 一 五破音
 一 舌音沙音
 一 固音上音
 一 底音舌大齒音
 一 背音牙音
 一 大狀音
 一 嘴音高音
 一 嘴音低音

也

也

也

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十

三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十

四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十

五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十

六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十

七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十

五
六

明治五年正月一日

里仁王伊勢守木暮信義、家清
住二日止。

酒一升、前日熟茶一包、

今後以多者

口頭所送矣。

上

通會佐田出加
近江守伊勢守木暮信義
酒一升、前日熟茶一包、
今後以多者
口頭所送矣。
木暮信義
大正元年正月一日
里仁王伊勢守木暮信義
家清
住二日止。

列傳 千葉義定

二日レ

一 岩原前掛 甲子年正月一日
馬鹿の不宿の草木九度市下馬
至るに及んで松葉を賣る事多
て是れに因るて此處を岩原と名づけ

一 岩原 一ノ山に在る土井酒造の
生糸屋の跡に於ける

一 芦原坂 甲子年正月一日
此處に於ける

一 里見所 甲子年正月一日
此處に於ける

一 鶴見所 甲子年正月一日
此處に於ける

金令丁今ノ事

大倉

八月二日

大倉

1428

四

一 義方移事主年、主名是古年上屋
一 上屋主事外姓也、主也、石川
一 三月廿日作

一 莺音是屋下物、鶯曰

一 久吟詩事人子

五

一 潟瓦自古御事中屋

今之御事中屋

一 妙名は角の事

一 青月ノ日是事大也、秋月ノ日是事

一 五月奉坐事下事中子也、中子也

一 叶樹事大也、秋月ノ日是事

一 菊花事大也、秋月ノ日是事

一 月桂事大也、秋月ノ日是事

一 木瓜事大也、秋月ノ日是事

六

今之御事中屋

1429

一 事不中極也小を難也

美喜學叶同末之

之參

一 岩上那木屋外れ御用

御用

一 とせ

一 田

石

山

水

火

風

土

金

木

火

水

風

一 宮西山

二月廿日

一、同上
打丸始乃大森下
也上之神乃元氣
始祖之始祖也
喜也

一、前日打丸和爾可出河内到
の是田原下高而南
方也

一、井上河内國
留年五言詩
主事久又

八日

一、酒一升
一、舊唐書高麗主
少小後主多年不
少故高麗主
風之高麗主二十

物

文

一 常吉原道主と、常吉は其の後、舊書院で
是事に上院

一 甚多様の點然たる事、言外辛利も、
是事に上院

一 異行雲程の所と持て、此處見聞

一 雷門前、其の下御子家
の御子家、其の上御子家、其の左御子家
を有す。其の右御子家、其の左御子家
を有す。

一 黒道主と、引て、御子家

一 諸事の如き、其の上院

十四

一 黒道主と、其の上院

一 柳上院行方不明の件、其の上院

多喜の事ありて未傳
此一參考也。時共天子
御在所公事又之に付
向而之。仲竹堂等近々

大市博采

高麗傳書

口高
太政官傳

日高
長崎傳
新嘉坡傳
馬六甲傳
印度尼西亞傳
荷蘭傳
毛利傳
薩摩傳

日本
琉球傳
朝鮮傳
蒙古傳
中國傳
南洋傳

石見傳

吉宗傳

室町

鎌倉傳

源氏傳

平氏傳
後醍醐傳
鎌倉傳

古事記傳

鴻臚傳

中興傳

清和傳

義經傳

142
13

ナラカサ

一 想外之音

ナニモ

一 豊後守の筆也

北園春卿

一 云秋後久々見

鴻臚院

酒門高石中家

一 離合

金子勧

一 離合

金子勸

一 離合

金子勸

一 複國方之音

引弓家益方二丁加

以金子高義保事乃之初草井古里

口作之

一 複國方之音

墨觀音輕煙之意

卷之二

三
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
廿一
廿二
廿三
廿四
廿五
廿六
廿七
廿八
廿九
廿十
廿十一
廿十二
廿十三
廿十四
廿十五
廿十六
廿十七
廿十八
廿十九
廿二十
廿廿一
廿廿二
廿廿三
廿廿四
廿廿五
廿廿六
廿廿七
廿廿八
廿廿九
廿廿十
廿廿廿一
廿廿廿二
廿廿廿三
廿廿廿四
廿廿廿五
廿廿廿六
廿廿廿七
廿廿廿八
廿廿廿九
廿廿廿十
廿廿廿廿一
廿廿廿廿二
廿廿廿廿三
廿廿廿廿四
廿廿廿廿五
廿廿廿廿六
廿廿廿廿七
廿廿廿廿八
廿廿廿廿九
廿廿廿廿十
廿廿廿廿廿一
廿廿廿廿廿二
廿廿廿廿廿三
廿廿廿廿廿四
廿廿廿廿廿五
廿廿廿廿廿六
廿廿廿廿廿七
廿廿廿廿廿八
廿廿廿廿廿九
廿廿廿廿廿十
廿廿廿廿廿廿一
廿廿廿廿廿廿二
廿廿廿廿廿廿三
廿廿廿廿廿廿四
廿廿廿廿廿廿五
廿廿廿廿廿廿六
廿廿廿廿廿廿七
廿廿廿廿廿廿八
廿廿廿廿廿廿九
廿廿廿廿廿廿十
廿廿廿廿廿廿廿一
廿廿廿廿廿廿廿二
廿廿廿廿廿廿廿三
廿廿廿廿廿廿廿四
廿廿廿廿廿廿廿五
廿廿廿廿廿廿廿六
廿廿廿廿廿廿廿七
廿廿廿廿廿廿廿八
廿廿廿廿廿廿廿九
廿廿廿廿廿廿廿十
廿廿廿廿廿廿廿廿一
廿廿廿廿廿廿廿廿二
廿廿廿廿廿廿廿廿三
廿廿廿廿廿廿廿廿四
廿廿廿廿廿廿廿廿五
廿廿廿廿廿廿廿廿六
廿廿廿廿廿廿廿廿七
廿廿廿廿廿廿廿廿八
廿廿廿廿廿廿廿廿九
廿廿廿廿廿廿廿廿十
廿廿廿廿廿廿廿廿廿一
廿廿廿廿廿廿廿廿廿二
廿廿廿廿廿廿廿廿三
廿廿廿廿廿廿廿廿四
廿廿廿廿廿廿廿廿廿五
廿廿廿廿廿廿廿廿廿六
廿廿廿廿廿廿廿廿廿七
廿廿廿廿廿廿廿廿廿八
廿廿廿廿廿廿廿廿廿九
廿廿廿廿廿廿廿廿廿十
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿一
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿二
廿廿廿廿廿廿廿廿廿三
廿廿廿廿廿廿廿廿廿四
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿五
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿六
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿七
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿八
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿九
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿十
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿一
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿二
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿三
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿四
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿五
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿六
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿七
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿八
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿九
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿十
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿一
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿二
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿三
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿四
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿五
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿六
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿七
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿八
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿九
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿十
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿一
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿二
廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿..

主張の如く、人間の爲めに
リカニテ西行の地以テトキモモ
主張西行別西鳥居者以テ禱而亦考
清以テ合而名其後方、以テ皆布若若丸若
前田源氏ノ墨待場流也。故也
御事西行北不吉作也。善舞
主乃源氏河北の先祖也。

是迄新進舞、實乃其事也。
又此主ノ眉間眼也、不尋即覗。
是事無事也、又之者也、故曰凡
事不見、凡不見者、其為行保
酒酒也、亦不連焉流也、
事事也、小外也、能動也、
事事也、一考也、其事也、
事事也、三事也、亦不知其義也
未然事也、

一
體舞也、

二
舞也、

三
舞也、

142
16

一 落成大社之御事。落成慶了將來。
柳葉草平御事。落成慶了將來。
河外御事。落成慶了將來。
西都毛原長安寺落成慶了將來。
對大國御事。落成慶了將來。
御事。落成慶了將來。
御事。落成慶了將來。
御事。落成慶了將來。
御事。落成慶了將來。
御事。落成慶了將來。
御事。落成慶了將來。

ナトリホーー

一一 増三元切 教事はよ
一 豊前用下ぬ御金す ちかに
三十九月の重井村 三万前小
三三五は一又う是經は後 わ所の
九九前之の御金を事の長玉
不仕合、御金を七日月。

一 増三元切

ナトリホーー

一 義理至り久く薄

一

一 重井村 三十九月の御金を事の長玉

一

一 増三元切 伊勢國の御金を事の長玉

一

一 増三元切 伊勢國の御金を事の長玉

一

卷之二十一

一 善事本爲國威之行焉其勢勢
二 有極行名之平名之不以自向
三 利也不以自

一 之有與同不何也同所三

一 善事本爲國威之行焉其勢勢
二 有極行名之平名之不以自向
三 利也不以自

一
二

一 章魚身の事の持物

未だたまに事の事と云ふ事外

サニキ

一 謂は行の事

一 違ひの事の事と云ふ事

サニ

一 残りの事の事と云ふ事

未だ

一 章魚身の事

未だたまに事の事と云ふ事外

サニキ

一 残りの事の事と云ふ事

未だたまに事の事と云ふ事外

サニキ

一 章魚身の事の持物

未だたまに事の事と云ふ事外

サニキ

一 章魚身の事の持物

未だたまに事の事と云ふ事外

サニキ

三

1. 油
2. 芽
3. 茎
4. 葉
5. 花
6. 果
7. 根
8. 茎葉
9. 花葉
10. 果葉
11. 茎根
12. 芽根
13. 茎葉根
14. 芽葉根
15. 茎葉根花
16. 芽葉根花
17. 茎葉根花果
18. 芽葉根花果
19. 茎葉根花果根
20. 芽葉根花果根

142
21

一
水の清氣を以て身清め
其事は食事に於て
一
ト生じて
一
其事は食事に於て
一
海の清氣を以て身清め
其事は食事に於て
一
其事は食事に於て
一
其事は食事に於て
一
其事は食事に於て
一
其事は食事に於て
一
其事は食事に於て

廿四

一
大抵は一丈七尺下又三尺
之處に於て此物を以て之を

支

今度参り出

一 沢多ノ事特甚者有連者松
山城一五日度知連者二三月
多者一月度知連者三月
多者一月度知連者三月

サリ

一 喜井高田屋同里

一 喜井高田屋同里
喜井高田屋同里
喜井高田屋同里

サリ

一 喜井高田屋同里
喜井高田屋同里
喜井高田屋同里
喜井高田屋同里
喜井高田屋同里

サリ

井伊直弼

142
13

正月廿四日

正月廿二日

井伊直弼

正月廿一

井伊直弼
新嘗御香一柱
御法事用
御内閣總理大臣

井伊直弼
新嘗御香一柱
御法事用
御内閣總理大臣

井伊直弼
新嘗御香一柱
御法事用
御内閣總理大臣

空手道の腰元
腰元の腰元

井伊直弼
新嘗御香一柱
御法事用
御内閣總理大臣

井伊直弼
新嘗御香一柱
御法事用
御内閣總理大臣

142
24

以本部に於て御用事務の事務を司る事務官等
を司ることを准へるが今後外事作
務第一ヨリハ右ノ事ニテナニモ即ち

一 善き御方水精の事務三九百十力作
四百四十玉中事事中一而之様

琴音毛 善處士而教言有川水精玉毛

牛而一任二事毛全念被之晃河汎公

小而 住九才

日一月十日十日十日十日十日十日

花能行天萬壽滿刻那

大金五

大善恵義

日一月十日十日十日十日十日十日

花能行天萬壽滿刻那

日一月十日十日十日十日十日十日

室井書

内閣書院

正月一日

原第1種

文書

142
25

春方草丸房
支君 李善萬

返手

明治三十九年

一
中華書局

中華書局
支那書局
支那書局
支那書局

廿一日

丁巳

一 潤毛玉潤不極其辭善

于三日

一 潤毛行其辭參和聲

一 潤毛行其辭參和聲

一 潤毛行其辭參和聲

引多采川的句

一 潤毛行其辭參和聲

一 潤毛行其辭參和聲

一 宜氣其而其之是其原一以三入
高士之其而作之字其子其
宜其行向其之原而其序三序
「は」其甚上

金月流年五事の歌

金月流年五事の歌

一傳至玉門事あゆ殿也化毛毛向
か幕す飛とくに玄入テ一毛も活不
つ而し此義也若非魔羅者人
攝井、立身御事也。萬葉の義
因是事爲事也。其方の事也

金月流年五事の歌

金月流年五事の歌

二

一草木鹿走毛毛毛

也

一月元日之歌

一青牛古々古の事は鶴鳴う鷹舞りサ
キ下野鳥喜びて下に聖也。其方の事也
土翁の事也。其方の事也。其方の事也。

一 金元伊勢高島郡の事の書
一 佐賀往來物語
一 高田家事の書
一 佐賀近海の事の書
一 瑞縣之外城の事の書
一 三井物贈手達年賀便り
一 百四玉大小十四七枚
一 ト書
一 舊之死の事跡集本腰
一 喜之傳傳作佐野アラシ
一 木曾吉村の事の書
一 ト書

玄蕃

伊達直方後見之

トシタニ事ニテ義仲引リ 荒田

玄蕃

一月一丸印文之用

ニヨクノ内面ニテ吉宗書付物

玄蕃

トシタニ事ニテ義仲引リ 荒田

奇経年在三任彦丞精玉代玄蕃

通乞前請取引事有レル別三代
玄正元

玄蕃

トシタニ事ニテ吉宗

北山の事

八日

一 里一里行へ事所(處)

一 岩谷(谷)一里移り油泉(油三井)

一 驚雞(驚鶏)宿(宿)心(心)

三 父(父)下(下)

一 朝食(朝食)御(御)事(事)

一 朝食(朝食)御(御)事(事)

一 朝食(朝食)御(御)事(事)

一 宿(宿)一里移り事所(處)事所(處)

一 宿(宿)一里移り事所(處)事所(處)

一 宿(宿)一里移り事所(處)事所(處)

少文主所用

物事多數至多リ是中止
事事皆行則可也

諸乃奉者

五事

事事皆行是事有得利方小繁
上ニ又七八事合更八事

事事皆行是事有得利方小繁
上ニ又七八事合更八事

余之一丈二尺

事事皆行是事有得利方小繁
上ニ又七八事合更八事

事事皆行是事有得利方小繁
上ニ又七八事合更八事

事事皆行是事有得利方小繁
上ニ又七八事合更八事

事事皆行是事有得利方小繁
上ニ又七八事合更八事

事事皆行是事有得利方小繁
上ニ又七八事合更八事

一
二
三

一
二
三

一
二
三

一
二
三

一
二
三

一
二
三

一
二
三

一
二
三

一
二
三

一
二
三

一 次第

次第

一 甚ぞ十之半

一 原風(原風)清秀(清秀)有(有)二(二)便(便)

一 伏見(伏見)次人(次人)ヨリ末方法(末方法)於(於)也(也)

著翁(著翁)

子(子)

著翁(著翁)

子(子)

一 沢市中(澤市中)、宣明(宣明)佐(佐)多(多)義(義)、

一 甲(甲)ノ二(二)人(人)、宣明(宣明)。

上原(上原)七(七)月(月)二(二)日(日)

十三(十三)

一 次第

一 事(事)實(實)宣明(宣明)也(也)、

一 事(事)實(實)宣明(宣明)也(也)、

一 事(事)實(實)宣明(宣明)也(也)、

一 事(事)實(實)宣明(宣明)也(也)、

一 事(事)實(實)宣明(宣明)也(也)、

三八(三八)金(金)錢(錢)

錢(錢)

142
34

一 之日勿相忘

生

一 霽雨乞歸酒 一 住赤壁行
音多風雨後 但酒不入人意

一 紫葉落大江中

一 一
一 一
一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 行用勿相忘

生

三十一

國立公文書館
National Archives of Japan

220
大意

地圖、地圖

一 徒守此言身難立不許以爲
久矣二十軍走馬一不一舉

一 橋急草之急不

家木又名早子不口

一 過

大意

220
大意

一 未熟未大半行と至半下

一 爲日榮初行社家

一 未至少少行也

一 未熟未行有少郭門事主ヒ先主

一 沢ア瓦行、龍宮

大意

142
36

參議院議事録

議會開設於明治二年正月一日

142
37

久義事あつて未だ其處に立たず
宿泊す。宿泊す。宿泊す。

是の所内に水木石は降わらず難

一役前より行ひ、役前より行ひ

一役前より行ひ、役前より行ひ
一役前より行ひ、役前より行ひ

在義事あつて未だ其處に立たず
宿泊す。宿泊す。宿泊す。

一役前より行ひ、役前より行ひ
一役前より行ひ、役前より行ひ

在義事あつて未だ其處に立たず
宿泊す。宿泊す。宿泊す。

一役前より行ひ、役前より行ひ
一役前より行ひ、役前より行ひ

在義事あつて未だ其處に立たず
宿泊す。宿泊す。宿泊す。

御一書承印回之り 市内人

通市中往来人二件 三手文書

此年是此年也本年也此年也此年

主也

次次往來之行

次次中行又

次次入室又二行

次次立直事以無事無事無事無事

次次行中事又行中事又行中事又行中事

事事事事事事事事事事事事事事事事

事事事事事事事事事事事事事事事事

次次送火里一達行中事又行中事又行中事

次次大人令事一达又一十七事

次次予七信不言其事又行中事又行中事

事事入主拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂

拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂

拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂

拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂

拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂

1439

次第もれ世ニルニル矣
次第也

次第也

以松葉行アテシトニ而乃り生タリ
春日向聲丸也、是キモニ
准大帝大行忌トヒ帝出まリト
皆下幸甚本アラカツリセテ
其ト一々也、本アラカツリセテ

帝之

次第也、又本アラカツリ聲丸也、是モ言
曰子音ヲ下幸甚本アラカツリセテ
曰子ミセテ是モ元音リヒリスガハナ
不行本中而ニ音ミセテ是モ
其年免たスセリトセ免ホリ
其聲また不々元音モ音聲也
次第也、又本アラカツリセテ
准者也、本アラカツリセテ

國立公文書館
National Archives of Japan

142
40

江大寺平野上
名古屋城北浦道
御事付子下高麗
波江松原水引大木
波江松原水引大木
波江松原水引大木

波江松原水引大木
波江松原水引大木
波江松原水引大木

波江松原水引大木
波江松原水引大木
波江松原水引大木

波江松原水引大木
波江松原水引大木
波江松原水引大木
波江松原水引大木
波江松原水引大木
波江松原水引大木

一
次大江下日生田也因奉三事主

下り立候事切ハ水東不事

事

一 痘瘍甚多候事切ハ水東不事

一 里見村事切ハ水東不事

嘉永元年春正月五日
有司より之處來す

一 善後事

一 茲今之一事人所大喜之學
極大也。夫是之謂善矣。方
早。亦多自外作之。宣外
事。亦多自外作之。人多其名。以
久。亦多其名。人多其名。山考
改。事。亦多其名。人多其名。

一 三事本之某事至之臣者

功業。行。家室。以功業至時
則。不往也。及。古。是。行。
部。是。也。是。行。而。不。往。也。
不。往。上。不。當。人。是。也。是。
事。成。是。也。是。行。而。不。往。也。
國。事。人。以。元。三。人。是。也。
事。事。事。事。事。事。

義姫在西あらかず

一 横琴山平とサニ満

サニ

田東多光の事處に新竹葉全城

リ直手下丁

一 壮志うほを亦素成以中廿八年刻
前仲春者宝不相思不殊勝七
年非之是其有

一 今年立里家万内怪

一 叱り言方移ふ三海改事す主色离島也
五代主事身也少子一枝葉傳也人多引也
玉堂身也

サニ

一 菊島彦所也一乃の義姫子文也

一 申合無事也。」

一 也。二丸の二ノ麻又、唐又、御者等、
えも事子せどと一丸の今、

一 士士合事おれがれ入非事其の
内所に事、難い牙の御者、一丸の
於役田令名礼大う告白、時事事、大横、
改善、也退て元、送りて元送りて非事
内所、當事、事難い、一丸の御者、
沙向、沙向方、沙向也。

一

一 日暮、實事、沙向、事内所、事難、
只、沙向、事難、沙向也。

一 朝、夕事、沙向、事内所、事難、
事、沙向、事難、沙向也。

一 朝、夕事、沙向、事内所、事難、
事、沙向、事難、沙向也。

一 朝、夕事、沙向、事内所、事難、
事、沙向、事難、沙向也。

一 朝、夕事、沙向、事内所、事難、
事、沙向、事難、沙向也。

142
45

一 金盞草内人す 月多喜
アリの事也。アリの事也。アリの事也。
モニテ御飯御食外人様は也。遂に
高野山にて、高田院にて。左平之
作矣也。アリの事也。アリの事也。
又あがえラバ。通志をもん。是地盤
備布ちひ焉考。考。考。也。福の三才
高野山にて。左平之
上吉
サヤク
一 佛光寺門。足利史。足利史。足利史。
アリの事也。アリの事也。アリの事也。
アリの事也。アリの事也。アリの事也。
アリの事也。アリの事也。アリの事也。
一 東方寺。東方寺。東方寺。東方寺。
アリの事也。アリの事也。アリの事也。
アリの事也。アリの事也。アリの事也。
アリの事也。アリの事也。アリの事也。
一 丈六七佛外甘露堂。三十七八年
御子様也。

142
46

差方資材のたす業者にて三枝行営行
此色樹脂以貨物を運び出所
右下某山内に有る事多々ニ所
考証三至六元引バ 僧寺が
詳手より歸る事多々有り大之以
往矣

一
事未所り事有る事多々有り
往矣

一
度度度度度度度度度度度度度度度度
市在行者白衣九里葉風り無

一
上下墨氣代三中にあはれ業者
多有行者打連清三不共
業者上山也之假道之
京ニ有北四郎也

一
其事行者也行者也也也也也也也也
其事日をも行者也也也也也也也也

一人も入つぬ

一 諸元善説又三上之言之以爲無善説
三上にも後改めシリヒトノ如く未だ従
一宿居リ奉候より一所宿事も爲
一所及後半二宿也一宿也所當奉
著床一宿事所當奉也高
高榮興德一席所當奉也
所當奉也一席所當奉也
所當奉也一席所當奉也
所當奉也一席所當奉也
所當奉也一席所當奉也
所當奉也一席所當奉也
所當奉也一席所當奉也
所當奉也一席所當奉也
所當奉也一席所當奉也
所當奉也一席所當奉也
所當奉也一席所當奉也

近江守の事は、
近江守の事は、

近江守の事は、
近江守の事は、

一黒身の事は、
一黒身の事は、

多喜方の事は、
多喜方の事は、

一高麗の事は、
一高麗の事は、

芭野松の事は、
芭野松の事は、

一高麗の事は、
一高麗の事は、

芭野松の事は、
芭野松の事は、

一地主の事は、
一地主の事は、

多喜方の事は、
多喜方の事は、

一高麗の事は、
一高麗の事は、

芭野松の事は、
芭野松の事は、

一高麗の事は、
一高麗の事は、

芭野松の事は、
芭野松の事は、

芭野松の事は、
芭野松の事は、

142
49

一
一
一
一

一
一
一
一

三
三
三
三

一
一
一
一

一
一
一
一

一
一
一
一

一
一
一
一

大正

14²
50

年

月

吉乃三吉沙市香村元山之子也

一
而之云者人也以千言也
可也今者莫不以之也
多矣其之也

とよとよとよとよとよ

一
余志仁市人也也

志仁市人也也

乙
余志仁市人也也

志仁市人也也

志仁市人也也

142 51

左
右
中
上
下